

高山清見道路 上野第二トンネル
貫通点
発注者 国土交通省 中部地方整備局 施工者 前田建設工業株式会社



高山くどうニュースレター 8月号

中部縦貫自動車道 高山清見道路 上野第二トンネル貫通式を実施



去る7月24日（日）、高山市松本町地内で建設中の中部縦貫自動車道高山清見道路の上野第二トンネルにおいて貫通式が挙行されました。

当初、7月上旬の「平成30年7月豪雨」における災害を考慮し中止も検討しましたが、被災したこの地域の中でも明るい話題として発信できればとの思いから、式典実施を決定しました。

当日は金子衆議院議員を始め大野参議院議員や高山市長ら来賓の方々にご出席いただき、最初に災害により亡くなられた方々への哀悼の意を込めて黙祷を捧げました。その後、貫通の儀や通り初めの儀などを執り行い、来賓挨拶や地域の声などをいただき閉式となりました。式典終了後は、参加者全員が高山IC側坑口から下切町地内で建設中の下切高架橋の橋脚を眺めたり、完成後は見ることができない景色をカメラに納めたりしていました。また、外は今年の夏らしい猛暑でしたが、トンネル内は比較的涼しく、快適のうちに終わることができました。



式典の様子

来賓挨拶



金子衆議院議員



大野参議院議員



國島高山市長

事業概要説明



野津事務所長

地域の声



北村商工会議所会頭



堀コンベンション会長



平塚まちづくり協議会長



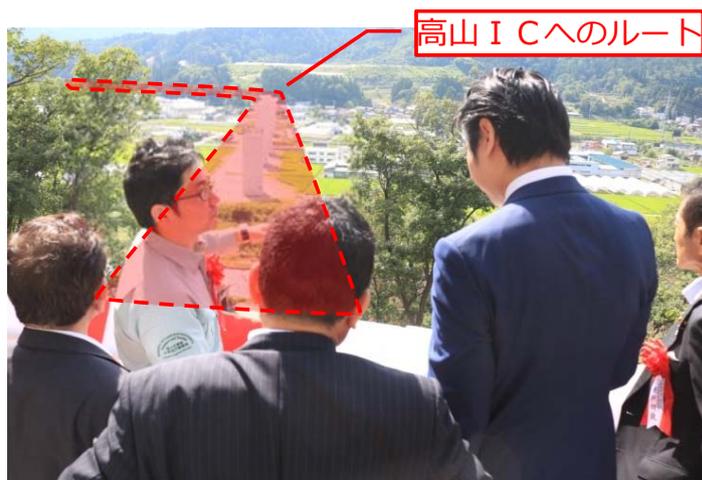
貫通の儀



通り初めの儀



当事業のパネルを展示



貫通点より高山ICを望む

第6回目の今回は、濃飛乗合自動車(株) 齋藤社長にインタビューを行いました。

「道で大きく変わる地域、飛騨」

- ・飛騨地域は、空港や新幹線がないため、バスは2次交通という位置づけのみでなく広域アクセスを担う1次交通としての位置づけもしており、そのアクセスには「道」が必須。
- ・代表的なものは安房峠トンネル。これがなければ関東へのアクセスは南回りで7時間以上かかり、高速バスサービスを提供できない。飛騨は、道がなければ始まらない。
- ・このような高速道路網など「道」が整備されることで可能となった広域の高速バスサービスは、会社としても安定的な収益につながっており、これからの時代・地域を見据えた新しい市場へのチャレンジができる環境を作り出している。その中で今、「着地型観光※」に力を入れてきている。

※旅行者を受け入れる側の地域（着地）側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態（観光庁HP）。対義語はパックツアー等出発地の旅行会社が企画して参加者を目的地へ連れて行く「発地型観光」。

- ・国内旅行やインバウンドを問わず、団体旅行・パック旅行から少人数や個人旅行へと移行してきており、飛騨高山にお越しいただいてから自由に次の行き先を選択できる取り組みを進めている。取り組みを始めてから5割ほど利用も伸びている。
- ・こういった取り組みを進めていくためには、この高山が移動のハブ、中心地となっていくことが重要。高山は、中部地方の中心に位置し東西南北に観光地を抱える立地として、金沢、富山、信州など様々な場所へアクセスするハブとなる可能性は十分あると考えている。これまでの道路整備等により中心地になりつつあるが、より進めていく事が必要。
- ・更に、交通手段のみならず、その地域自体の魅力が無ければ目的地として選んでももらえない。飛騨地域および移動可能な範囲には、そういった魅力が多く存在していると考えている。そういった地域の魅力を地域の方々が見直し、再発見し、発掘していくことが重要。この活動は、まさに地域の活力を維持し向上していくことにつながるものである。
- ・また、これらの着地型観光の移動手段には、神岡の「ガッタンゴー」等、通常の路線バスを活用している。人口減少による利用者減少傾向の中で路線の維持自体が厳しい状況にある中、日常生活の移動（内需）のみならず、観光客の移動（外需）を取り込むことが路線の維持には必要。
- ・このように、バスによる来訪が地域の活力につながり、地域の魅力向上の取り組みが地域の移動手段であるバスの確保にもつながる。着地型観光の取り組みは、地域にとっては相乗効果をもつ重要なものと考えている。
- ・広域的な飛騨への移動、飛騨をハブとした着地型観光とそれを担う地域の活力の維持・向上、これら全て「道」があることが前提であり、道がなければ始まらない。本当に飛騨は「道」によって大きく変わる地域であり、今後とも地域を支える道路整備には期待している。



齋藤 尚正
濃飛乗合自動車
社長

* 『着地型観光』の一例 *

高山濃飛バスセンターから飛騨市神岡町にあるレールマウンテンバイク「ガッタンゴー（Gattan Go!!）」への往復プラン。ガッタンゴーの乗車時間に合わせて運行されます。詳しくは、HPをご覧ください。

https://www.nouhibus.co.jp/hida/bustrip/gattan_am_a/

飛騨高山高校とメンテナンス学習を開催しました

道路インフラの老朽化の現状、維持・管理の重要性を知ることを目的として、将来を担う技術者となるために日ごろ土木等の勉強をしている飛騨高山高校の生徒と橋梁点検の実習を行いました。

今回の実習は、飛騨高山高校と飛騨地域の社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）が取り組んでいる課題研究に高山国道事務所が協同参加し、ME、道路橋点検士とともに橋梁点検の実務や、橋梁メンテナンスの基礎知識の習得を行いました。

【座学】 メンテナンスの必要性や、橋梁点検のポイント・損傷事例などの説明を行いました。



【現場実習】 2班に分かれて実際に点検を行い、点検の着目ポイントや損傷事例について理解を深めました。



飛騨地域特有の損傷事例を実際に見て確認しました。



打診によって損傷を体感しました。



高所作業車に乗って損傷を確認しました。

◆生徒の声

- ・授業では体験できない事ができ、理解を深めることができた。
- ・実際に見たことにより、点検して長持ちさせることが大切なことがわかった。



飛騨高山高校の2, 3年生が特定外来生物の防除作業を実施 ～高山西ICビオトープ“飛騨の森再生”における環境学習～

高山西IC内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”で生物多様性が進む一方、特定外来生物（オオハンゴンソウ）や生態系被害防止外来種リスト掲載種（イタチハギ等）も進入し始めていることから、8月2日（木）飛騨高山高校環境科学科2, 3年生8名が参加して、ビオトープ内の在来種保護のため、外来生物法（平成17年6月施行）において特定外来生物に指定されている「オオハンゴンソウ」の防除を行いました。

ビオトープ内の林縁部には過年度に移植したキキョウが生育していますが、キキョウ周辺の雑草があまり生長してしまうとキキョウの生育を阻害することから、先月、キキョウ周辺の雑草について手鎌で草刈りを行いました。草刈り時にはつぼみだったキキョウが花をつけており、生徒達は、防除作業に先立ちキキョウについて説明を受け、また花の状況を観察しました。

北アメリカ原産のオオハンゴンソウは、種子による繁殖が旺盛で成長が早いうえに、刈り取っても根が残っているとすぐ萌芽して再生してしまいます。そのため、種子の繁殖を防ぐため花が咲き始める7月～8月に実施し、根を残さないよう、また種子や根が飛散しないよう手作業で掘り出し、防除後は焼却処分します。生徒達は、オオハンゴンソウについて説明を受けた後、大きいもので2メートル程まで育ったオオハンゴンソウを、根ごと掘り出して防除する作業に汗を流しました。

今回、約1時間の作業で約16.5kgのオオハンゴンソウを防除しました。

【キキョウ】

環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県RDB: 準絶滅危惧



【7月環境学習時のキキョウ】
つぼみがついていますが、
花はまだ咲いていませんでした



【今回環境学習時のキキョウ】
可憐な花を咲かせていました



【オオハンゴンソウ】

群落を形成し在来種を駆逐します
(開花期に撮影)



【オオハンゴンソウの防除】

スコップを使用して根を残さないよう掘り取ります



※特定外来生物

外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されます。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。



【参加者と防除したオオハンゴンソウ】
袋に集め、処分場で焼却処分します

オオハンゴンソウは10年前に防除を始めた時は約60kgを防除しましたが、継続して防除を実施することで防除する量は次第に減ってきています。今年度の防除量は昨年度(約10kg)より増えましたが、これは藪になっていて昨年度は手を付けられなかった箇所での防除作業ができたため、ビオトープ内のオオハンゴンソウの量は確実に減少しています。

これからもビオトープの生態系保全のため、防除活動を継続して実施していきます。

「平成30年7月豪雨」の被災現場でも活躍した 災害対策用機械の操作訓練を実施しました！！

高山国道事務所では7月24日（火）に、一般社団法人飛騨三協防災対策協議会と合同で、災害対策用機械の操作訓練を実施しました。突然起こる災害に対し、より迅速な被災現場での支援活動を実施するために訓練を行いました。

今年の7月には、記録的な豪雨による「平成30年7月豪雨」により、飛騨地域でも土砂災害等の被害がでました。災害対策用機械は被災現場に出動し、被災現場での支援活動を行い、早期の復旧のため、昼夜を問わず復旧作業をするため活躍しました。



被災現場での夜間復旧作業を支援する照明車

＜今回操作訓練を行った災害対策用機械一覧＞ 中部縦貫道小鳥トンネル牧ヶ洞電気室構内



照明車

主に夜間に災害復旧作業を行う際に使用されます。伸縮部分は最大10m近く延ばすことが出来るため、広範囲を照らすことが可能です。50m先でも本が読めるくらいの明るさです！



〈ライトを伸ばした様子〉



散水車

路面清掃用として使用される車両です。緊急時には蛇口を取り付けて給水車として使用することが出来ます。また、前方に除雪用装備をつけることによって、除雪トラックとしても利用できます。



〈蛇口を取り付ける様子〉



待機支援車

災害が発生した際に、現地派遣者を支援する車両です。ベッドや簡易厨房、発電機などを備えており、寝泊まりすることができます。会議等を行うこともできます。



〈発電機を固定する様子〉



Ku-SAT

通信衛星を介して、映像の送受信や通話が可能です。可搬式なので、衛星通信車が行くことができない災害現場で使用できます。



〈衛星通信の周波数に合わせる様子〉

労働災害防止に向けて

「平成30年度 国土交通省高山国道事務所工事安全協議会」総会を開催

7月26日(木)、飛騨高山ビックアリーナに於いて、高山労働基準監督署 梅田健貴安全衛生課長を来賓に迎え、「平成30年度国土交通省高山国道事務所工事安全協議会総会」を開催し、受注者66社と発注者、合わせて82名が参加しました。

最初に、野津所長が挨拶を述べた後、高山労働基準監督署梅田安全衛生課長より、「労働災害の発生状況及び安全対策の実施について」と題して、労働災害の発生状況及びこれらの原因と対策について御講演、鷺見工務課長の「労働災害防止」決意表明が行われました。



野津所長による挨拶



梅田安全衛生課長による講演

続いて、事務所各支部（下呂維持、高山維持、神岡維持、中部縦貫道監督官）より各々の現場における事故防止に向けた工夫について報告のあとに神岡支部副支部長が代表して「スローガン」を読み上げ、労働災害の防止を宣言しました。



事故防止決意表明

最後に、今年度は規約を改定し、今後は点検・測量・調査等の業務受注者も会員とすることを明確化し、名称も「**高山国道事務所工事等安全協議会**」と改めることので了承されました。



安全宣言

「新たな視点で見つめる職場
創意と工夫で安全管理
惜しまぬ努力で築くゼロ災」

スローガン

ドローン操作訓練を 実施しました！！

高山市丹生川町
坊方地内にて

8月6日実施

ドローンとは？

無人航空機的一种で、複数の回転翼を持つマルチコプターを指します。
災害現場での調査や、施設点検など幅広く活用が可能です。

講習会（座学）の様子



講師の方から、ドローンについての説明を受けました。

ドローン組立・操作方法といった基礎的なことから、ドローン飛行の許認可の条件などを学びました。特にドローンを飛ばす条件として、10時間以上の飛行経歴が必要であることが重要だと教わりました。

操作訓練の様子



基礎操作が容易になるまで10時間以上の練習が必要ということで、『3mの高さでの離着陸』『一定の高さを保ったまま、指定された地点を順番に移動する』などの訓練を行いました。



災害時のドローン活用の様子



平成30年7月豪雨においてドローンを実際に使用しました。

土砂流出により危険な現場でも、ドローンを活用することで安全に写真を撮ることができました。

また、上空から写真を撮ることで全体図がよりわかりやすくなり、現場と災害対策本部での情報共有が容易になりました。

一之宮町 常泉寺川 バイカモ復旧活動！

高山市一之宮町を流れる常泉寺川の水無神社周辺に生息する梅花藻（バイカモ）が、7月の大雨で川が増水して流出してしまいました。

そこで地元の皆様方によるバイカモの復旧活動が、7月28日に行われました。

高山国道事務所も工事施工業者とこの活動に参加してきました。



梅花藻（バイカモ）とは？

きれいな水にしか生育しないキンポウゲ科の水草です。

（岐阜県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類）

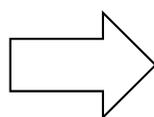
常泉寺川の水無神社周辺はきれいな湧き水があるのと、

「水無梅花藻を守る会」による様々な活動にて、その生息が維持されてます。



1年前の様子（川一面に生育）

7月の大雨
バイカモ流出



作業当日（川底があらわに）

当日は「水無梅花藻を守る会」の方の指導のもと、川の近くで難を逃れて生息していたバイカモを取り分けて、常泉寺川に移植しました。



横一列に並んでバイカモを数株に小分けして川底に石で固定する作業を行いました。バイカモはあちこちから根が出るので、根がたくさん出て川底に根付く！という作戦です。

急なイベントでしたが、当日は子供から大人まで約40名の方が参加されていました。地元の方のバイカモに対する特別な思いを感じた1日となりました。